

## 231-pm05

### 「ほめ」が薬学生の学習動機づけに及ぼす影響

○武田 直仁<sup>1</sup>, 佐々木 麻那<sup>1</sup>, 吉村 恭嗣<sup>1</sup>, 田口 忠緒<sup>1</sup> (1名城大薬)

【目的】言語的報酬である「ほめ」が学習動機づけに及ぼす影響が注目されている。名城大学薬学生の3年生(256名)を対象に大学生生活を想定した「学習動機づけ尺度」と「ほめられた経験尺度」を用いたアンケート調査を実施・分析し、薬学生に対する「ほめ」の効果について検証した。

【方法】「学習動機づけ尺度」の各質問について主因子法・Promax回転による因子分析を行った結果、4因子の全22項目を学習動機づけ尺度とした。因子間相関から尺度間に連続性があることが示された。

【結果及び考察】学習動機づけが成績に与える影響について検討した結果、「内発的動機」と「同一化」の得点については成績上位の学生の得点が有意に高く、「外発的動機」の得点については成績下位の学生の得点が有意に高いことが明らかになった。「取り入れ」については有意差がみられなかった。ほめられた経験については成績上位の学生の得点が有意に高いことが明らかになった。すなわち、成績の良い学生はほめられた経験が多いことがわかった。

これらの結果から、“行動へのほめ”は薬学生においても学習意欲を高めるために役立つと考えられる。また、「ほめ」は成績向上にも寄与していると考えられる。そこで、「内発的動機」に近づけるためには成績やテストの結果などをほめるよりも学生の努力などについてほめることが重要であることが示唆された。

【まとめ】薬学生においても「ほめ」は学習動機づけを「内発的動機」に導く効果があり、成績向上をもたらすものと考えられる。大学現場では教員が学生をほめるという行為はあまり見られない。今後、学生と教員が交流を深めていくことで「ほめ」が促進されることを期待する。